

## 78. 衿の造形における線と面の理解と構成衿付け線について

岐阜女子短大 福本 慶子

袖木 順子

1. 衣服構成の指導において、デザインと技術に有機的な基礎的知識を確めることを目的とする。

内容及び成果、衣服の原初的段階においては無裁断衣服が考えられるが、裁断衣の最初は貫頭衣である。すなわち、布（及び布以前の材料）に、頭を通して、着衣し固定する。しかし、このことは現在のどのような衣服デザインにも重要な骨組として、内包されている。そうした原始形の頸穴は頸の付け根より必ず大きく作られなければ、着脱することが出来ない。一方デザインとしての要求は、付け根にピッタリであることを基礎的なものとして要求する。そこでいわゆるオープニングとして、頸回りから一線（あるいはそれ以上の線）が計画されるか、頸ぐりを再びデザインとしてくりあけなければならない。そこで種々な身頃の衿ぐりによるデザインの変化が生ずる。衿布はこれら衿ぐりに対する強調と装飾のデザインであるが、身頃の衿ぐりにどのような衿付け線・衿山線、衿の外回り線、及びそれらに囲まれる面を如何に計画するかによって、形としての衿の表情は決定する。今回は身頃の衿付け線を頸の付け根回りに限定し、衿布の衿付け線の相違による諸要素の変化とデザインの効果について考察した。